

横浜市立 山内小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①児童全員が自分の考えを伝え合えることができるように、ペアやグループなど、学習形態を工夫し、言語活動の充実を図る。 ②授業のねらい・発問・指示を明確にするとともに、板書を工夫し、「丁寧でわかりやすい授業」を目指す。	①学習形態の工夫をするともに、発表の仕方や話の聞き方の指導をし、言語活動を充実させてきた。必要な言語をしっかり使うことや、言語を豊かにすることの指導を継続していきい。②板書の工夫をするともに、学年ごとに発達段階に応じたノートを一斉購入することで、ノートの使い方もそろえて指導することができた。	B
豊かな心	①あいさつ運動：自分から進んで、気持ちのよいあいさつができるよう取り組む。 ②マナーブックによる指導：学校や地域でだれもが楽しく気持ちよく過ごすため、一人ひとりが守るべきマナーについて、マナーブックに準じて指導する。	①あいさつ運動が定着し、朝会などでも指導を続けた結果、自分からあいさつをする児童が増えてきている。しかし、まだ課題が残る部分も多い。今後も、学校、地域、家庭と連携を図り指導を続ける必要がある。②年度初めに、マナーブックを用いて教職員が統一した指導をすることができた。今後も継続していく。	A
健やかな体	①一校一実践として「がんちゃん」(縄跳び運動)に継続して取り組み、1年間を通して、運動に親しむとともに、色別の班で取り組むことで、異学年交流も行う。 ②「よい姿勢で心からだを元気にしよう!」のテーマに向けて、正しい姿勢や運動を習慣化できるよう全校で取り組む。	①「がんちゃん」(縄跳び運動)の取り組みは、職員、児童ともに意識が浸透してきた。異学年交流も計画的に行うことができた。雨天時について課題が残る。②横浜市体育協会と連携し姿勢や運動について学んだことを委員会活動を通して全校に伝えた。多様な運動の習慣化について今後も家庭と連携して進めていきたい。	B
特別支援教育	①合理的配慮について職員の理解を深め、個々のニーズに対応できるような質を高める。 ②特別支援教室の環境等を視直し、利用児童の特性に応じた適切な指導・支援を進める。 ③学級経営・授業など学校生活全ての場面でユニバーサルデザインが基盤となるよう、職員研修を重ねる。	①外部講師を招いて職員研修を行い、合理的配慮等についての理解を深め、各々の資質を高めることができた。②特別支援教室の環境の見直しを図ると共に、指導体制についても都度改善した。③山内小スタンダードに基づく指導を全職員で徹底することで、学校生活におけるユニバーサルデザインが共有化された。	A
児童指導	①保護者とともに、「山内小スタンダード/マナーブック」を用いて全職員で場面ごとの指導内容を共有し、一貫した指導を行い、規範意識の向上を図る。 ②横浜プログラムを継続的に実施し、社会的スキルを育成する。YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土をつくることに、いじめ・暴力のない学校づくりを目指す。	①「山内小スタンダード/マナーブック」を用いて、「子どもたちの規範意識の向上を図り、具体的な場面で指導をすることができた。②継続して、YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土づくりに努めた。また、児童いじめ防止委員会を立ち上げ、児童が主体的に取り組むいじめ防止の活動を展開した。	A
安全管理	①職員防災研修や不審者対応訓練、予告なし訓練を通して緊急時に職員が冷静且つ組織的に対応できるようにする。 ②避難訓練・メール配信・引き取り訓練を一体化させ、より実践に近い状況を想定した総合防災訓練を実施することで、児童・職員・家庭の防災意識を高める。	①避難経路や持ち出し物を再検討し、誰がどこにいても迅速に避難できるように見直しをした。来年度は、まだ行っていない清掃活動の避難訓練を行いたい。②総合防災訓練は、より実践に近い形となってきており、今年度は学校から家庭までも避難訓練という意識のもと、通学路の留意箇所も各家庭で確認してもらった。	A
地域連携	①全職員が地域理解を深めるために地域行事等に参加する機会を設け、地域の材を学習活動に生かすことで、教職員・児童共に「まち」との関わりを深める。 ②学校HPの充実を図り、学校だよりや学年だよりを通して教育活動の様子を定期的に発信する。	①全職員が地域行事に参加する体制をとるとともに、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域の材に協力を求めた。人材バンクを作成し、連携を継続的なものにしていく。②HPでは、学校だよりや学年だよりだけでなく、各学年の活動報告や学校生活のきまりを閲覧できるようにし、地域・保護者の情報公開に努めた。	A
0			
人材育成・組織運営	①総務会・企画会を軸にして学校運営に全職員が参画する体制を整え、「チーム山内小」として組織的運営を進める。 ②メンターチームをモデルリーダーが支え全職員で育成する。月例のメンター会議を中心にメンパーが自主的に参加し授業力・教師力の向上を目指す。	①総務会・企画会に加え、主任会も月一回開き、行事等の実施計画のほか、学校内の課題について共通理解を図った。 ②メンター会議には、自主的に参加して授業力の向上が図られた。授業研に向けての指導案検討では、教科や学年担当者も参加し指導・助言に当たるなど学校全体での協力が見られた。	A
ブロック内相互評価後の気付き	とても元気よく気持ちのよいあいさつができる児童が多い。児童の表情が明るく、全体的に明るい雰囲気である。校内の掲示物もきれいに掲示されていた。授業展開が楽しく、特に家庭科の授業では家事にとても興味をもって授業を受けている姿が印象的であった。また、施設の古さはあるものの、校舎・教室内の環境も整っていて、清掃が行き届いていた。		
学校関係者評価	子どもたちが、いい表情で落ちていて授業に取り組んでいた。教職員がスタンダード等をもとに同じ方向、同じ姿勢で指導している成果だと感じた。子どもたちが健全に育つ環境づくりがよくされている。児童いじめ防止委員会等、子ども自身が考えているということが、とてもよい。子どもたちが、主体的に取り組む中で、考える力、実行する力につながっている。健やかな体づくりでは、学校だけでなく、家庭での過ごし方等もかかわっており、具体的に示し、保護者にも啓発していく必要がある。		
学校経営中期取組目標振り返り	具体的取組に対して一定の達成感を感じている。「そろえる指導」「チームでの指導」を念頭に全教職員が教育活動に取り組んでいる。こうした指導は、スタンダード・学校生活のしおり・マナーブックをよりどころとすることで、教科指導、児童指導など学校生活全般においての一貫した指導につながった。また、複数教員での指導(T.T.)や学年内教科担任制が定着し、児童をより多くの目で見る体制ができてきた。こうした取組が着実に子どもたちの成長にプラスの効果を与えている。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学習のつながりを意識して指導を行うとともに、学習の流れが分かる板書をもとにノート指導を充実させた。②マナーブックをもとに基本的な学習態度を指導したり、ノート指導をそろえたりすることで、学び方も積み重ねていく。③ペアやグループ学習など学習形態を工夫するとともに、学年に応じた話し方、聞き方の指導をし、言語活動を充実させる。	①③について、学年で研究、工夫して実践することで、成果が現れてきているが、十分とはいえない。必要な力を明らかにし、今後も指導を継続していきい。②についても、学び方の基本が身につけてきている。クラスや学年間でばらつきが出ないよう、共通理解を図りながら指導を続けた。	B
豊かな心	①道徳教育実践推進校としての研究活動を通して豊かな心の育成を図りながら、児童の自尊感情を高めるとともに、受容的な学級、学校づくりを進める。 ②マナーブックに準じて、学校だけでなく地域の一員として気持ちよく過ごすためのあいさつや規範意識などを継続して指導していく。指導内容は学年で確認をし、統一した指導を行う。	①これまでの指導で、自分からあいさつをする習慣がついている児童もいるが、まだ課題が残る部分も残る。今後も、学校、地域、家庭での更なる連携を図り指導を続けていく。②年度初めだけでなく、年間を通してマナーブックを用いた指導を全学年で実施できるように計画を立てる。	B
健やかな体	①一校一実践として「がんちゃん」(縄跳び運動)に継続して取り組み、運動に親しむ学校風土づくりを進める。 ②「すずんからだを動かそう。姿勢シャキッと心スッカリをテーマに正しい姿勢を維持できる体づくりとすずんで動こうとする心」を育てる。③体育の運動領域ととの職員研修を実施し、どの教員も運動のポイントを理解し、的確な指導が行えるようにする。	①継続して取り組んでいる成果として、意識がさらに浸透し、児童主体の運営にすることができた。担当者だけではなく、全職員が進められる合理的な流れを共通理解していく。②姿勢への取り組みが各クラス任せになっているので、みんなで高めあえる取組を考えたい。③日程を考えて、4月初めに計画を立てる。	B
特別支援教育	①特別支援教室の環境・教材等を更に整備する。また、利用児童に応じた課題を設定し、適切な指導を進める。特に、合理的配慮について職員の理解を深め、個々のニーズに対応できるような職員各々の資質を高める。 ②学級経営・授業など学校生活の全ての場面で統一された環境・指導ができるよう、職員研修を行ったり、その都度山内小スタンダードを確認したりする。	①特別支援教室の教材を増やしたり、特別支援教室担当教諭と各担任との連携を密にすることにより、児童の実態に合わせた課題設定と適切な指導を行えた。②外部講師を招聘しての研修を行い、特別支援教育の面でも全職員で統一した環境設定や対応、指導ができるように、意識を高めることができた。	A
児童指導	①山内小スタンダードの改訂見直しを行い、「マナーブック」「学校生活のしおり」と合わせて児童指導において効果的に活用を図る。 ②横浜プログラムを継続的に実施し、社会的スキルを育成する。YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土をつくることに、いじめ・暴力のない学校づくりを目指す。	①山内小スタンダードを児童の実態に即して改訂見直しを行い、児童指導において効果的に活用を図るようとした。②横浜プログラムを継続的に実施し、YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土をつくるように努めた。いじめ・暴力等の行動に組織的に対応できるようにした。	A
安全管理	①災害時に使う道具の使用方法を全職員で確認する。計画を進めることはできた。まだ実践できていないので、来年度の課題とする。 ②教職員予告なしを増やすことでより実践に近い形となった。また、昨年度の予告なし訓練のときの反省を生かして教職員が取り組むことができた。清掃活動の避難訓練は、今後も継続していく必要がある。	①全職員が確認するために業者と連絡を取り、計画を進めることはできた。まだ実践できていないので、来年度の課題とする。 ②教職員予告なしを増やすことでより実践に近い形となった。また、昨年度の予告なし訓練のときの反省を生かして教職員が取り組むことができた。清掃活動の避難訓練は、今後も継続していく必要がある。	A
地域連携	①今年度もお祭りや防災訓練、清掃活動などの地域行事に職員が参加し、地域とのつながりを深めた。また、生活科や総合的な学習の時間では、新たな人材への協力要請にも積極的に取り組んでいる。②学校HPでは、教育活動の発信やアンケートを実施し、有意義な活用を進めている学校を目指す。	①今年度もお祭りや防災訓練、清掃活動などの地域行事に職員が参加し、地域とのつながりを深めた。また、生活科や総合的な学習の時間では、新たな人材への協力要請にも積極的に取り組んでいる。②学校HPでは、教育活動の発信やアンケートを実施し、有意義な活用を進めている学校を目指す。	A
いじめへの対応	①YPアセスメントを実施し児童理解を深めるとともに指導プログラムを計画的に行う。②児童いじめ防止委員会を定期的に開催し、子どもたちが自分の問題としていじめについて考え、いじめのない学校づくりに参加できるようにする。③定期的アンケートや児童対象の教育相談期間を設定し、児童のSOSを早期に発見できる体制を作る。	①YPアセスメントを実施し児童理解を深め、指導プログラムを計画的に行う。②児童いじめ防止委員会を定期的に開催し、子どもたちが自分の問題としていじめについて考える時間を確保し、いじめのない学校づくりに参加できるようにする。「いじめといり」について深く考えていく。③定期的アンケートや児童対象の教育相談期間、相談ボックスを設定し、児童のSOSを早期に発見できる体制を作った。	A
人材育成・組織運営	①丁寧な話し合う必要性の高い内容を精選して各会(総務会・企画会・主任会等)をもつことができるよう、ミライムの活用を進める。②メンター研では、教材や発問の工夫等、各自で本時の授業における重点ポイントを定め、共通の視点をもって授業研に臨む。	①行事の反省やアンケートの集約などでミライムの活用が進んだ。会議の内容には重複が見られる。働き方改革の視点からも、会議を含めた行事の精選が必要である。②重点ポイントの設定により共通の視点での研究が図られた。授業研については、年間計画に従って、計画的に準備を進められるような支援が必要である。	B

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業のねらい、発問、指示を明確にするとともに、板書や教材等を工夫し、丁寧でわかりやすい授業を目指す。②学習状況調査の結果をもとに、学年の課題を明らかにし、指導の重点を置く。③学習形態を工夫するとともに、学年に応じた話し方、聞き方や教科に必要な表現の仕方などを指導し、学び合える授業を行う。	②学習状況調査の結果をもとに明らかになった課題を学年で確認し、意識して指導をより強めてきた。③低学年では、教材や学習の進め方などを学年で共通理解してきた。中、高学年では、学年内教科担任制により、どのクラスでも同じ指導をすることで、各学年、各教科に必要な表現の仕方などを同じように指導してきた。引き続き、授業の工夫をし、丁寧でわかりやすい指導に努めたい。	B
豊かな心	①道徳の研究活動を通して豊かな心の育成を図りながら児童の自尊感情を高めるとともに、受容的な学級、学校づくりを進める。②マナーブックを用いて、学校だけでなく地域の一員として気持ちよく過ごすためのあいさつや規範意識などを継続して指導する。学年で統一した指導になるよう年間計画で指導する。	①児童間トラブルが少なく、あいさつ等の良い生活習慣が身につけている児童が多い。研究活動の深まりを感じる。一方、相手のことを考えずにきつい言葉をかける児童もいるので、引き続き大切にいく。②節目節目でマナーブックや学校生活のしおりを用いた指導を行うことができた。学年や学級により幅がある中で、全校での一致した取り組みとなるよう意識の高揚を図る。	B
健やかな体	①一校一実践として「がんちゃん」(縄跳び運動)に継続して取り組み、運動に親しむ学校風土づくりを進める。 ②体力テストの結果をしっかりと分析し、個人差を配する中で、個々の児童が自分の体力に関する課題を理解できるようにする。③体育の運動領域ととの職員研修を実施し、どの教員も運動のポイントを理解し、的確な指導が行えるようにする。	①児童の意識と運営面では流れができ、児童が主体的に取り組むことができています。学校行事の中で、弾力的に児童が自分の体力に関する課題を配するようになっています。③体育の運動領域ととの職員研修を実施し、どの教員も運動のポイントを理解し、的確な指導が行えるようにする。	B
特別支援教育	①一般級在籍の支援を要する児童へのより適切な指導を目指して、合理的配慮の具体的な手立ての理解を深め、職員の実態に合わせた課題設定と適切な指導を行える。②山内スタンダードを中心に据えた指導を徹底し、特別支援教育の面において学校生活の全ての場面で環境・指導・対応が全職員で統一して行えるようにする。	①特別支援教室担当教諭と各担任、保護者で連携を密にした。当該児童の実態を探ること、より適切な指導を行うことができた。また、家庭的に学習環境に課題を抱える児童に対して、放課後指導を行うことで、学習習慣をつけるきっかけを作ることができた。②山内スタンダードの見直しを行いながら、全職員の意識を一層高め、どの学年でも統一した指導を行うことができた。	A
児童指導	①「学校生活のしおり」の改訂見直しを行い、「山内小スタンダード」「マナーブック」と合わせて児童指導において効果的な活用を行う。②横浜プログラムを継続的に実施し、YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土をつくることに、いじめ・暴力のない学校づくりを目指す。	①「学校生活のしおり」を児童の実態に即して改訂見直しを行い、児童指導において効果的に活用を図るようとした。②横浜プログラムを継続的に実施し、YPアセスメント等を活用し、温かな学級風土をつくることに、いじめ・暴力のない学校づくりを目指す。	A
安全管理	①児童や教職員予告なしの避難訓練の実施を増やして、より実践に近づける。特に清掃活動中や休み時間の避難訓練などを通して、緊急時の適切な判断力と実践力の向上を図る。 ②防災設備の確認を始め、職員防災研修や不審者対応訓練を通して職員が冷静且つ組織的に対応できるようにする。	①児童や教職員への予告を行わない避難訓練の機会を増やした。清掃時間、休み時間など様々な想定場面での適切な判断に基づいた避難行動ができる実践力を高めてきた。②シャッター操作訓練や防災機器の確認など、全職員の参加による防災研修を実施し、防災設備への基本理解を徹底した。今後はさらに不審者対応訓練の充実を図り、警察署の指導の下、緊急時の組織的対応力を向上させていく。	A
地域連携	①家庭訪問、生活科、総合的な学習の時間の教材研究を通して、地域の地理や歴史などの理解を深める。地域の材や学習資料に働きかけ、児童の「まち」に対する感謝と愛着を深める。②学校便り、学年便り、学校HPや学校を開く週間などによる情報発信やアンケートなどの意見集約を行い、地域・保護者と連携し「まち」に愛される学校を目指す。	①生活・総合の教材開発で学年ごとに地域の材とのつながりを深め、教育活動に活かすことができた。地域行事においては教職員が参加し続けてきたことで、自治会や地域との協力的な関係作りができていく。これからも引き続き、児童・保護者への行事参加を呼びかけ、よりよい連携を図りたい。②学校HPに日々の教育活動の日記や学年だよりを載せたことで閲覧数が増加した。アンケートの意見集約して活動の改善に活かすことができた。	A
いじめへの対応	①YPアセスメントを実施し児童理解を深め、指導プログラムを計画的に行う。②児童いじめ防止委員会を定期的に開催し、いじめについて考える時間を確保し、いじめのない学校づくりに参加できるようにする。「いじめといり」について深く考えていく。③定期的アンケートや児童対象の教育相談期間、相談ボックスを設定し、児童のSOSを早期に発見できる体制を作る。	①YPアセスメントを実施し児童理解を深め、指導プログラムを計画的に行う。②児童いじめ防止委員会を定期的に開催し、いじめについて考える時間を確保し、いじめのない学校づくりに参加できるようにする。「いじめといり」について深く考えていく。③定期的アンケートや児童対象の教育相談期間、相談ボックスを設定し、児童のSOSを早期に発見できる体制を整えた。	A
人材育成・業務改善	①定例の総務会と企画会を廃止する。総務会には必要に応じて開催する。企画会に替えて、ミライムを活用して意見を集約し、職員会議の議題を精選する。職員室内のレイアウトを見直し、動きやすい職場環境を作る。②定例のメンター研を廃止し、日程を含め自主的に年間計画を立てる。授業研を通して授業力を伸ばすため、ハマ・アップの活用を図る。	①ミライムの活用が進み、職員会議の提案や連絡内容のペーパーレスが進んだ。提案内容を学年研で検討するための時間の確保には、課題が残る。職員室等の環境整備は進んだ。不用文書の廃棄作業の外注で、年度末作業が軽減した。②ハマ・アップを活用して授業研究を行うなど、自主的にメンター研を運営することができた。授業研の成果をその後の学級経営に生かすためには、前期のうちに設定する必要があった。	B
ブロック内相互評価後の気付き	多くの児童が、気持ちのよいあいさつを返してくれる。目を見て、礼儀正しくできている。休み時間には、校庭で遊ぶ児童が多く、普段から外遊びの習慣が身についていると思われる。校内環境も、整えられており、嫌な印象を受けない。清掃も、目立って汚れていると感じるところがなく、一生懸命にやっている児童の姿が想像できる。		
学校関係者評価	いきいきと活躍し、成長する子どもたちに、山内小学校の教育に対する熱意が感じられる。いじめに関する未然防止に力を注ぎ、連携して対応及び事業の共有をしていることに安心感を感じる。「おはなしポスト」の設置を通して、児童が悩みを発信できる場が多くなるのと同時に、「あいさつ」に関しては、学校だけでなく、家庭での働きかけも必要であると感じる。総合的な学習の時間が充実して、地域とのつながりが強く感じられる。地域との協働、キャリア教育という視点からも、今後さらなる連携・発展を期待したい。		
学校経営中期取組目標振り返り	本校が独自で作成した「山内スタンダード」「学校生活のきまり」「マナーブック」を捉え、全教職員が教科指導、児童指導に対して同じ方向を向いて取り組んでいる。複数教員での指導(少人数・T.T.)や教科担任制を取り入れるなど、児童をより多くの目で見守り、教科及び児童支援に力を注いでいる。こうした取組が、着実に子どもたちの成長にプラスの効果を与えていることを実感している。児童支援に関わる内容については、管理職、専任を柱に、校内の支援体制が確立している。今後、校外との連携・協力をさらに進め、児童を取り巻く様々な事案に対応できる体制を整えていきたい。		